

はじめに

平成 23 年 3 月 11 日に発災した東日本大震災及び東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故では、多くの子どもたちが避難を強いられ、学ぶ環境も厳しい状況になりました。そのような中で、南相馬市立中央図書館では、小学校の学校図書館を支援するために、平成 24 年度に 4 校をモデル校として位置づけ、学校図書館支援員の派遣を開始しました。また、平成 25 年度には、小学校全校（16 校）に拡大し、平成 26 年度は、中学校全校（6 校）を含む市内 21 校に派遣したところです。

この背景としては、新学習指導要領においては、「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童（生徒）の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること」とされており、学校教育における学校図書館の役割が重要になってきました。

また、「南相馬市復興総合計画」「南相馬市教育振興基本計画」「南相馬市こども読書活動推進計画」では、子どもの読書環境の充実に係る施策の中に、学校図書館の環境整備への支援を掲げていることもあります。

しかし、何より大震災以降、学校図書館においても子どもたちの読書活動を応援することで、読書を通じて豊かな感性を育み、困難を乗り越えるちからを涵養してほしいとの願いがあります。

本報告書は、平成 26 年度の学校図書館支援員が、各校の経営方針に基づき、校長先生をはじめ司書教諭の方々のご指導をいただきながら、また、中央図書館の児童チームと連携をしながら、ともに学校図書館の充実に図った活動記録です。

今後も、南相馬市立中央図書館として、温かくきめ細やかな学校図書館の支援の在り方を研究し、実践していきたいと考えております。

平成 27 年 5 月

南相馬市立中央図書館